

会 議 録

会議の名称	令和7年度第2回茨木市男女共同参画推進審議会
開催日時	令和8年2月20日(金)午後2時00分～午後3時20分
開催場所	市役所南館8階中会議室
議 長	長町 理恵子 会長（追手門学院大学経済学部教授）
出席者	長町会長（追手門学院大学経済学部教授）、平山副会長（大阪公立大学大学院文学研究科准教授）、樫本委員（元小学校校長）、木曾委員（男女共生センターローズWAM事業運営協議会会長）、田井委員（エンパワメントいばらき）、道満委員（茨木市人権擁護委員会委員）、中野委員（茨木商工会議所中小企業振興部地域担当部長）、橋本委員（医師）、藤里委員（弁護士）、森委員（市民公募） 【10人】
欠席者	畑委員（毎日新聞客員編集委員）、茂原委員（市民公募）【2人】
事務局職員	中井市民文化部長、松山市民文化部次長兼人権・男女共生課長、富崎人権・男女共生課参事兼ローズWAM所長、山下男女共生係長、奥田ローズWAM所長代理
開催形態	公開（傍聴人2人）
議題（案件）	（1）令和7年度実施事業について （2）答申について （3）その他
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・（資料1）ローズWAM事業報告 ・（資料2）令和7年度答申（案） ・（資料3）次期計画の策定スケジュール（案）

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	「令和7年度第2回 茨木市男女共同参画推進審議会」を開催する。
事務局	<p><会議の成立について説明></p> <p>本日の出席委員は全12人中の10人で、欠席委員は2人。半数以上の出席があるので、茨木市男女共同参画推進審議会規則第6条第2項の規定により、会議は成立している。</p> <p>案件1「令和7年度実施事業について」</p> <p>【資料1に基づき事務局から説明】</p>
長町会長	質問や意見等あれば、お願いしたい。
樫本委員	デートDVワークが5回行われたとのことだが、令和6年度にデートDV予防啓発冊子改訂があったので、感想は変わったか。
事務局	現状、改定前の冊子を使ったワークをしている。生徒に役割を演じてもらうなど参加してもらい、自分事として捉えやすいとの感想を頂いている。
森委員	主な具体的取組の男性にとってのジェンダー平等推進に関する6つの事例について、自分の中で言葉の意味合いと、事例が繋がらないので、解説願いたい。
事務局	各種講座は、男性の家庭参加の視点が中心になっている。古くは「男児厨房に入らず」といった言葉があるように、男性が家事に関われないと言ったところがあった。家事に関われなかった方にチャレンジしていただくことを目的としている講座である。
森委員	個人としては、男性にとってのジェンダー平等の推進は、自分の居場所や立ち位置に悩んでいる方へのアプローチと想像していた。家事参画は趣味講座のように感じる。ミートが弱いように感じた。
事務局	おっしゃっていただいた観点も必要と感じる。今後の企画の参考とさせていただきます。
田井委員	ローズ WAM は素晴らしい建物と感じており、こういう拠点はいつまでも

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>大切にしてほしい。ローズ WAM の重点施策とは少し離れるが、女性の参画拡大のための環境整備ということで、高齢の女性がホッと一息できる取組や場所はどこにあるのか。サークル活動で高齢女性がローズ WAM に集まっているのも知っているが、アクティブに参加できない方たちは市内のどこでほっとしているのか、と思った。ローズ WAM の中になにげなくふらっと立ち寄れるような取組み・場所・モノがあれば嬉しい。男性・女性・子どもにとってなどキーワードがいくつかあると思うが、そのひとつに「高齢女性」を入れてほしい。</p>
平山副会長	<p>施設利用者数は延べ数か。利用者の内訳、例えば継続利用や年齢別は分かるか。</p>
事務局	<p>利用者数については貸室利用者数を積算しており、延べ数である。利用者数の内訳は男女別がわかる。</p>
平山副会長	<p>延べ数を集めて何を知りたいのか。例えば新規利用がわかった方が、どういうイベントで集客できたかなどデータとしてはわかることがあるのでは。延べでしか取れないものなのか。利用者アンケート内に「新規」等項目立てれば取れるのではないか。数字からどういう取組に繋げていけるか役立つのではないか。</p>
長町会長	<p>施設利用状況において、「女性はたらき方相談」の数が前年度比で減少しているが、理由や思い当たることはあるか。人手不足なので仕事探しには困っていないのか。</p>
事務局	<p>タイトルで「はたらき方」に限定した事柄しか相談できないと、捉えられているのかもしれない。</p>
藤里委員	<p>市役所本庁でも相談窓口があるため、ローズ WAM の相談から本庁の相談に流れているのかもしれない。本庁での相談は、ひとり親相談に限らず窓口が多いので、相談件数が分散している印象を受ける。</p>
平山副会長	<p>カテゴリではたらき方相談になっているが、電話・面接相談で就業に関する事柄に含まれていることもある。</p>
長町会長	<p>ひとり親・DVの方は、経済的な困りごとについて電話・面接相談、法律相談といった各相談窓口で聞いており、「はたらき方相談」のカテゴリではないところで相談しているのかもしれない。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	ローズWAMでの相談では、働きたいけど働ける環境にないなど、直接仕事に結びつく前の段階の方からの相談を受けたい。「女性はたらき方相談」というタイトルなので、就職相談と思われる方もいるかもしれない。過去にはタイトルを「生き方相談」としていた時代もあった。
長町会長	相談に来る方が一人だけだと、生産性が低い。窓口を分けると効率が悪いかもしれない。例年比で今年度が特に相談件数が少ないから、より目立っている。
木曾委員	<p>男性にとってのジェンダー平等の意義はターゲットが広すぎる。どこをターゲットにしているか。高齢女性の居場所についても難しいなと感じている、男女共同参画の分野なのか、高齢者なのか、ローズWAMとしてみるのか。働くこと、家庭のこと、こどものことなどいろんな役割を担うポジションで、何を解決したいのかが具体的に見えた方がいいと思う。行政として幅広く拾えるようにしておく必要があると思うが、それぞれのやりたいことと、解決したい課題が漠然としているので、本当に解決すべきことが見えていない気がする。市としてどんな課題にどのような解決を図りたいのか明確にすると、審議会で話をしやすくなると思う。</p> <p>ローズWAMの部屋利用については個人利用が増加している。いろんな公共施設で増えていると思うが、民間のコワーキングよりも格段に安価すぎる。パブリックに対してプライベート利用が増えすぎている。施設との接点が増えることはいいことだと思うが、施設の用途・目的とずれている。他市では開いている部屋を開放してコワーキングスペースにしていたりするので、検討してみてはどうか。</p>
事務局	個人で貸室利用できることを知っている方は利用されているが、知らない方は2階の自習スペース使っている。何かアプローチできればと考える。自習室利用は高校生が複数人で自習しているケースもある。大人も研究等のためにしている人もいる。
長町会長	大人でもオンライン会議で個室が必要な方もいるので、そういった利用を増やして収入を増やすのも1つの目的かと思う。
榎本委員	ローズWAMは男女共同参画に関する課題を具体的に市民に投げかける場所だと感じる。おにクルはとてもいい場所ではあるが、小さな子どもと保護者・家族間の発言や関係性を見聞きしていると気になる点がある。おにクルや子ども支援担当課とローズWAMが連携して、若い世代に対する啓

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
木曾委員	<p>発をされたい。学びの場となる事業として投げかけてもらえたらと思う。</p> <p>おにクル2階のわっくるでイベント開催が増えてきた。コラボなど大々的でなくても、おにクルでの啓発ができればよいと思う。</p>
事務局	<p>おにクルはローズWAMと親和性が高いと感じている。おにクル来館者にローズWAMに来ていただいてジェンダー平等に触れていただく仕組み作りをしたい。庁内の取組として、おにクルをはじめ多様な分野との連携の取組事業が動き出している部分がある。</p>
木曾委員	<p>ローズWAMを利用できる方へのアプローチはしやすいが、ローズWAMから距離が遠方の方へは、地域福祉・地域コミュニティなどとの連携もできたらいいと思う。</p>
<p>案件2「答申について」</p> <p>【資料2に基づき事務局から説明】</p>	
森委員	<p>答申1の本文が何を指しているのかよくわからないのでかみ砕いていただきたい。「図る」は誤字では。修正願いたい。</p>
事務局	<p>「図る」については修正する。答申1の本文については、推進状況報告書において多くの指標があるが、どの指標のウエイトを大きく捉えるか等メリハリをつけたほうが良いというご意見を踏まえたところである。人が多く集まる場所は、各種公共施設を指している。</p>
田井委員	<p>答申2(1)に「小学校」が入っていないのは言葉のくくりか。「中・高」の文字があるので、小中高と入ると良いと思う。</p> <p>小学3・4年生に実施している暴力から身を守るワークショップの中で「男の子だから泣いたらあかん」、「お兄ちゃん、お姉ちゃんだから、泣いたらあかん」と言われたことがあるという声を聞く。ワークショップではNO GO TELLを徹底して伝えており、TELは時間をおいてもできることや相談方法の紹介をしている。相談方法としては、電話・チャット・法務局のこどもの人権SOSミニレター等を案内している。携帯電話を持っていない子もいるので、SOSミニレターが欲しいという声も聞く。SOSミニレターは、こどもの目に触れやすい、こどもが行く場所に連携して設置してほしい。予算の関係上配布数が少ないときもあるだろうが、こどもが身近に相談できることを感じられるよう、職員室前や図書館、おにクル等こどもが</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
道満委員	<p>集う場所にミニレターの設置を願う。</p> <p>また、生活が苦しく困っている子の中には、生理用品がなく不安に思う子がいる。せめて中学校のトイレには生理用品を配置してほしい。大人が目線の配置ではなく、こども目線で連携を図りたい。</p> <p>SOS ミニレターの設置状況は、学校によってまちまちであるが、ミニレターのことをこどもたちは知っている。学校で配布されるので見たことがあるが、配布直後に書くのは抵抗感があると思う。また、一斉に配布して児童が家庭に持ち帰ると家で紛失することもあると思うので、必要な時に自分で手にとれるよう、こどもたちが手に取りやすい場所に配置してほしい。また、いまはチャット相談もあり、電話よりチャットの方がしやすい。</p>
長町会長	<p>生理用品について、勤務する大学では大学生が設置して、大学が予算をだしている。以前ローズ WAM まつりで学生が発表をしたところ、市民団体の方から問い合わせがあり、他市では公立学校に生理用品の設置があるが、茨木市は設置がないと話されていた。学生も大学のトイレには生理用品があるので、活動が進めば小中学校や附属中高に広めたいと考えている。こどもたちがどれくらい困っているか図りたい。</p> <p>SOS ミニレターの設置として、こどもが立ち寄りやすい場所には商業施設等もあげられるかと思われる。</p>
木曾委員	<p>答申 2 (1) について、小学校は教育機関に含まれるのか。また、教育機関には幼保は含めるのか。幼保のこどもたちが声をあげるのは難しいが、こどもも含めてもらいたい。</p> <p>答申 2 (2) について、SNS 相談も「相談等」とし、SNS に限らない相談の受け方を含められたい。将来、SNS も時代遅れになっているかもしれない。</p> <p>答申 1 について、指標のウエイトという話だったのか。違ったように思う。今の調査方法だと、ジェンダー平等に関する課題が何かわからない。実態として何が課題か明確に見える調査方法を考えていただきたい。ジェンダー平等の話とは異なるが、実態と指標の話の例として、学校の不登校のカウントについて、1 か月以上1 日も出席できていないと不登校となるが、校門まで行けば出席扱いとなる。このような調査方法だと、実態とずれる。本当に解決すべき課題がどこにあるのか考えられる調査方法に見直しをしていただきたい。</p>
道満委員	<p>DV ・ こどもの問題として、教育機関との連携強化があるが、教育機関に頼ると本質的な悩みや話が出てこないと思う。教育機関を通さない SNS</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	やチャットなどの相談時には問題の本質があらわれることもある。教育機関だけでは問題が解決できないことも多くある。
長町会長	学校を通さずSOSミニレターが来たときは、対個人で対応するのか。
道満委員	返信文に相談先として、学校の先生・担任等を案内することがある。
長町会長	教育機関との連携の仕方も工夫が必要か。
道満委員	教育機関との連携で対応できることもあるが、杓子定規ですまされないことが増えており、教育機関との連携だけでは解決をしないこともある。
藤里委員	答申 2 (1) について、教育機関に幼保を含まないのか。こどもたちというくくりであれば、幼保を含めたほうが良い。
事務局	デートDV予防啓発に対して中学、高校としていた。ご意見を踏まえて、ご指摘の部分の記載を検討する。
木曾委員	デートDVについては、小学生でもありえる。また、答申 2 (1) については、「および」の部分で文章が切れると思う。
平山副会長	答申 2 (2) について、SNS相談の話が出るが、2 (1) にも関わる話なので、構成を変えた方が意見を反映しやすいと思う。
中野委員	答申に別添資料等をつけるわけではないのか。
事務局	別添資料はない。構成の項目建てについては、検討する。
檜本委員	答申 2 (1) について、大きなくくりと小さなくくりが並列している。連携強化とデートDVを文章として分けられてはどうか。
中野委員	デートDV啓発の資料があることを伝えたい、という事務局の思いもあると思う。
事務局	デートDV啓発冊子を作成したということと、暴力防止講座の一例としてあげている。
藤里委員	文章の構成に問題があるということだと思う。教育機関の部分を教育機関

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	等とすると良いのではないか。
木曾委員	連携するにあたって、連携する内容が連携相手にとってどれくらい影響するか、どんな課題なのか、具体的な実態把握が必要であり、実態把握と連携強化が結びつくと思う。市役所は信頼の高さゆえ、集まる情報がとても多いと思う。調査をできる機関としてデータ取得に取り組みたい。
中野委員	デートDV予防啓発冊子は、交際がメインだったが、親子間、同性間など汎用できる内容である。うまく作られたので、答申の文章にも反映されたい。
長町会長	デート DV 予防啓発冊子については、面識のない他大学の先生が授業で使ってくださっていた。 最終の答申書については、会長に一任いただくということであるが、本日いただいたご意見踏まえて最終案を作成する。確認されたい方は事務局までお問い合わせ願う。
	案件 3 「その他」
	【資料 3 に基づき事務局から説明】
森委員	国・府の計画と整合性を図らずに、答申書にあった市固有の課題等がでてきた場合には、市の課題に注力した方が良いと思う。
長町会長	審議会委員は 2 年の任期となっており、本日の会議が任期満了前の最終の会議となるが、その他、何か意見等はあるか。
榎本委員	先日、緊急避妊薬の市販化があった。望まない妊娠についての情報について、男女共同参画と自立の問題なので、正しい情報提供を行われる予定はあるか。具体的に早急に進められたい。
事務局	健康医療分野とも調整したい。
橋本委員	緊急避妊薬については、以前は医者との面接が必要であり、オンライン診断も難しかったが、薬局で直接対応できるようになった。このことの広報は必要と感じている。
長町会長	この件については、こどもたちが誤解をしないよう気にかける必要がある

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	と感じている。
橋本委員	SOSミニレターの設置場所として、医院にも置いたらいいかと思った。学校への相談だけではなく、他のところに繋がればとてもいいなと感じた。
道満委員	ミニレターで多いのは、小学3・4年生の女兒からで、いじめまではいかなないけれど、友人関係でうまくいかなかったという内容であり、そういった内容であれば、学校への相談を伝えることもあるが、相談内容により対応は異なる。医院に設置してもらえると窓口が広がると思う。 大阪法務局主催の中学生人権作文コンテストで、本年度市内中学生の作品が6つある最優秀賞のうちのひとつを受賞したので報告させていただきたい。
長町会長	その他事務局から報告はあるか。
事務局	会議録については出来上がり次第送付するので、ご確認願いたい。 最後に、市民文化部長から、あいさつをさせていただく。
中井部長	<あいさつ>
長町会長	それでは、第2回茨木市男女共同参画推進審議会を閉会とする。 <閉会> 以上